

令和2年6月4日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。先ほどご案内したとおり、本日もライブで配信をしております。本日の話題は2件です。市長、よろしく願いいたします。

【市長】

今日はエスパルスに先日いただいたマスクを付けてきました。このごろ感じるんですけれども、マスクを皆さん着用している中で、なんていうかな、日本人の美的センスというのは大したものだなと思うんですけれども、それぞれ個性に応じてマスクを付ける、すごくファッショナブルになってきたな、白いマスクだけではなくて、その人その人に合ったマスクを付けると、これからビジネスチャンスになっていくんでしょうね。市販でもいろんな柄のデザインのマスクがこれから出てくるんだろうというふうに思います。ですから、コロナのこの生活の中で、やっぱりそれぞれ人々が工夫をして、そして少しでも潤いを持っていくということが全てビジネスチャンスになってくるんだろうなというふうに思います。これから補正予算の説明をさせていただきますけれども、例えば新しい生活様式の中で、宅配とかテイクアウトとか、あるいは今日、買い物代行をしていこうという新聞記事も見かましたけれども、いろいろなチャンスが出てくる。つまり、コロナのこの現実を認めた上で、現実を否定してしまうと何もできないということになってしまいます。現実を肯定した上でいろいろチャンスを見いだしていきたいというふうに、静岡市政も運営をしていきたいというふうに思っております。そんな問題意識の下、今日の話は二つであります。まず最初は令和2年度6月補正予算案について見てください。

これはすでに記者レクを済ませておりますので、私から大きな方向性とそのもととなる考え方について申し上げます。静岡市議会6月定例会に提出する補正予算の規模は、一般会計において総額約23億3,800万円の増額となりました。通底するのは、今日バッジも付けてきましたけれども、二つのライフを守ろう、生命としてのライフとくらしとしてのライフを守っていくというための補正予算だというご理解をいただきたいと思っております。お手元にA4横紙資料で新型コロナウイルス感染症に対する緊急対策について、という資料が配付されているかと思っております。これですね。

今回、四つの柱を立てました。まず一つ目は地域経済の活性化であります。これまでは事業者の皆さんの事業の継続をサポートする取り組みを進めてきましたけれども、これから社会経済活動の再開に向けて消費行動を促していく取り組みも並行して進めていきたいと、そういう段階に来ているというふうに理解をしております。そこで、今回コロナ禍で大きな打撃を受けた観光事業を中心とした地域経済活動を推進していくため、国がGo Toキャンペーンを始めております。誘客キャンペーンですね。私たち、たまたま偶然なんですけれども、連携中枢都市で『GO TO』というお互いの市町の情報を共有化する広報誌を出しておりますので、私どももGo To静岡キャンペーンを展開していこうというふうに思っております。国が宿泊費への補助を行うのに応じて、静岡市は市内に宿泊する観光客に対して、飲食、土産物、体験等、幅広くご利用いただける、Go To静岡商品券2,000円分を配布し、観光客の消費を促していきます。なお、商品券の利用施設は、静岡市内の

飲食店やお土産物店にとどまらず、連携中枢都市圏を構成する中部5市2町の一部の施設も加え、これも新聞で頑張っておりますけれども、茶氷を今年もやっていくよと。中部だけではなくて県内全般に茶氷をやっていく。あるいは、茶の間、茶園の絶景を独占できる癒しのウッドデッキですね。あんなこともうまく加えながら、この商品券を使っていただきたいと、魅力を高めていきたいというふうに思っています。国の Go To キャンペーンとともに、県の県内観光促進事業に合わせた誘客キャンペーンについても連携をして、これは予備費を活用して実施していきたいというふうに思っています。

この地域経済活性化の二つ目、これが私たち静岡市の独自の取り組みとしては目玉になってくると思います。消費喚起の取り組みへの支援というふうに書いております。事業名でいうと消費喚起事業費補助金ですね。市がやっているよというアイコンとして、全部エール静岡と付けております。ですので、エール静岡消費喚起事業費補助金であります。新しい生活様式に対応するための環境整備にかかる経費や事業費に対する助成、クーポンなどのインセンティブに対する助成を行うことを通じて、社会経済活動の活性化に貢献をしていきたいと思っております。冒頭言った、じゃあ買い物代行をどうするかとか、通販とかテイクアウトをどういうふうにやっていくか、個々の商店それぞれの取り組みのアイデアを募集する中で、その下支えの予算であります。

二つ目の柱は、子どもたち、児童生徒への支援であります。臨時休校の影響により、児童や生徒の学習の定着、懸念されておりますし、また、社会性ですね。やっぱりクラス編成をするこの大事な時期に社会性を身に付けるということも大事だと思います。そういう面をどういうふうにこれから挽回をしていくかということですが、とりわけ学力面、学習面に不安を感じている子どもたちに対して、教員のOBであるとか将来教師を志望している大学生の補充的な学習指導を行います。これもお手元に急きょ入れさせていただいた、この A4 縦紙の資料があると思いますが、これは非常に全国的にもユニークな例となることだと思います。9日の日に協定式を行います。なんと、われわれ、実は教育委員会、公教育、学習塾とタッグを組んで、この学習支援をするという取り組みであります。中学生の指導に関して、静岡市内に本社がある秀英予備校さんと協定を締結をして、補充のための学習の内容、指導法について、秀英予備校さんが持っている専門的なノウハウ、動画であるとかさまざまな蓄積、これをお借りをし、事業の動画とテキストを提供していただき、質の高い学習を実施をしていきたいというふうに思っています。

三つ目の柱は医療福祉への支援であり、重症患者を受け入れる市立静岡病院の環境整備事業への助成とか、障害福祉サービスにおけるロボット等の導入事業への助成がここに含まれます。

最後に、四つ目は文化・スポーツへの支援ということで、文化活動やスポーツイベントを行う文化・スポーツ団体等に対し施設使用料などを助成します。先日発表しました、エール静岡のパフォーミングアーツに対する助成金、これも大変手応えを感じております。今日の時点で 200 名、200 グループを交付対象にしておりますけれども、142 人の応募があり、もう7割以上が埋まってしまったと。音楽、演劇、大道芸、さまざまなジャンルの方が名乗りを上げてくれて、今、動画作成をしてくれております。こんなことで彼らに対して経済的に支援をするとともに、市民の皆さんにエールを送りたいというふうに思っております。この文化・スポーツへの支援ということも成熟都市としての静岡市、まち

は劇場を5大構想の一つにしている静岡市として積極的に取り組んでいきたいというふうに思っております。なお、一連の緊急対策の第4弾にかかる財源は、地方創生臨時交付金などの国庫補助金はじめ、令和2年度当初予算の事業のうち、現時点で中止が決定したイベントや実施が困難となった事業などの減額補正により生じた約3億8,000万円を活用していく計画であります。

最後に、この資料の中には入っておりませんが、インフラ整備も大事であります。社会基盤整備として、東名日本平久能山スマートインターチェンジから清水港へのアクセス向上を図るための国道150号の拡幅であるとか、山脇大谷線の整備であるとか、道路新設、あるいは改良事業も進めていき、道路や橋梁などの老朽化や自然災害に備え、橋梁の補修工事や道路ののり面の対策事業なども、この補正予算の中に入れております。

この結果、予算額の累計は一般会計が約454億円で、特別会計および企業会計を合わせた総額では約7,224億円となりました。以上が一つ目の話題についてであります。

二つ目の、これもエール静岡と冠を付けましたけども、コロナ対策基金の創設についてであります。市民の皆さんをはじめ、法人、団体に広く寄附金を募集してまいりたいと思います。これも二つのライフを守るという基本的な考え方です。感染拡大防止と社会経済活動の活性化をどう両立していくかという点で自治体の力が問われる。そこに対して市民の皆さんにも応援をいただきたいという趣旨であります。これについてもお手元の資料をご覧くださいと思います。A4縦紙であります。この下のほうにブルーの白抜きのところがありますけども、考えられる基金の使い道として、例えば医療では医療機器の導入など検査体制の強化や重症患者等の受け入れ体制の強化に必要な経費。福祉や介護では、例えばマスクや手袋などの消毒液の購入など、民間福祉施設などで使用する衛生用品の購入に関する必要な経費。あるいは、子育ては再開が予定される乳幼児の検診の見直しなど感染症対策に必要な経費。さらには、教育の分野では児童生徒への学習の機会。さっきのものがそのものですね。児童生徒の学習の機会を増やすなど、学校休校の影響による学力の確保や維持に必要な経費等々、さまざまな使い方があろうかと思えます。ぜひ静岡市の取り組みを支援をしていただきたいという多くの皆さまがこの基金に届けていただければ幸いですし、これ非常にPRが大事でありますので、報道の皆さま方におかれましてもこの基金の周知を、地道な活動でありますけども、ぜひPRについてお力添えをお願いしたいと存じます。私からは以上です。

【司会】

それでは、ただ今の項目につきましてご質問がある方はお願いいたします。社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。静岡新聞さん、よろしくお願いたします。

【静岡新聞】

静岡新聞です。幹事社質問をさせていただきます。田辺市長は先月29日に市役所清水庁舎、海洋文化施設、歴史文化施設の凍結、事務の一時停止という表現でしたけれども、を表明されました。

そのときの囲み取材で、時を待ってリスタートしたいという発言をされているんですが、今後この三つの事業を中止する可能性は全くないのか、また、そのリスタート、再開するとしたら、どのような議論、プロセスを考えているのか教えてください。

【市長】

まず、これについては、これまでも申し上げたとおり、コロナ禍という社会経済の大きな変化に伴って、いったん止まらなければならないという必要性から決断したことであり、中止を前提としたものではありません。今回いったん停止とした3事業については、新型コロナウイルス感染症に大きな影響を受けたこの社会経済状況に応じて、事業への民間事業者の参入の促進、感染拡大防止への対応などの観点から見直しを行い、事業関係者へのヒアリングなどのプロセスを踏み、コロナの収束状況、あるいは経済の回復状況、それを見定めて、めどが付いたものからリスタートを切りたいというふうに考えております。

【静岡新聞】

2問目いきます。静岡市と地域医療機能推進機構、JCHOの会合が、1日非公開で市役所内で行われまして、市が桜ヶ丘病院の清水庁舎駐車場への移転案を提示したとのことですが、市の市有財産である土地の提供を前提にするならば公開で議論を行うべきと考えます。今後JCHOとの協議はどのように行っていくのか教えてください。

【市長】

交渉事ですから、記者、やっぱり相手があつてのことです。やっぱり相手の方に配慮しながらわれわれの主張も伝えていくという交渉事ですので、相手に対して一番に配慮することが必要ですので、公開での議論は考えておりません。

しかしながら、誤解しないでいただきたいんですけども、市として情報を隠そうという意図はございません。相手方との合意の上で、必要な情報については広く市民の皆さんにお知らせしたいと思っております。いずれにしても交渉事ですので、私自身、市民の皆さんにとって最良の結果を導き出すために、熱意を持ってJCHOさんとこれから対話をしていきたいというふうに思っております。そして、合意を導き出したいというふうに思っています。以上です。

【静岡新聞】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。それでは、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。SUTさん、どうぞ。

【テレビ静岡】

テレビ静岡です。幹事社質問の2問目に関連してなんですけれども、1日の市とJCHOの協議の終了後、病院の院長が会議室の外で待っていた弊社を含む一部報道陣に詰め寄って、弊社に至ってはカメラを押さえつけられるという事態が生じました。院長はその後、事前にマスコミが来るとは知らなかったと話しているという主旨の話をしてはいますが、桜ヶ丘病院の移転というのは市民にとって大きな関心事であり、それを事前のリリースもなく非公開で行っていたため、われわれの取材対応としては外で待っていて出てくるところを待っているということしかできませんでした。こうした一種のトラブルっていうのを防ぐという面でも、特に市と公金が入っているJCHOの会議というのは、事務方レベルとはいえ公開するとか考えはあると思うんですけれども、そのへん改めて、今、公開にする必要はないとおっしゃいましたけれども、これを踏まえても変わらないでしょうか。

【市長】

私も広報課から後ほど報告を受けて驚きました。院長に対しては紳士的にやりましょうということと呼び掛けたいと思います。以上です。

【テレビ静岡】

それは院長に直接呼び掛けたりするおつもりでよろしいでしょうか。

【市長】

そうですね。

【テレビ静岡】

会議の公開については変わらずこれからも非公開でやっていくと。

【市長】

はい。それはとにかく合意をすると。清水桜ヶ丘病院を静岡市内に存続をさせると、ここが最大の目的でありますので、立ち位置は当然違います。それを合意に向けていく過程の中には、やはり立場の違いで激しい議論もあるでしょう。でも、その激しい議論のところだけクローズアップされて報道されると、市民の皆さんは余計な心配をしてしまうかもしれない。できないんじゃないかとか、決裂するんじゃないかということでもありますね。そうではなくて、私たちは目標は共有しております。内野院長とも、とにかく早く、一日でも早く老朽化した清水桜ヶ丘病院を移転して、そしてリオープンさせたいという目標は共通でありますので、そこから今のお互いの立場の違いを一つずつ議論の中で打ち破っていきいたいなというふうに思っています。

【テレビ静岡】

そうされますと、取材対応は前回のようなわれわれは外で待っているという形にならざるを得ないん

ですが、そこだけご理解いただければと思います。

【市長】

そうですね。やっぱりテレビカメラの前の印象ってすごく大事だと思うんですね。私もようやく3期目になって少し慣れてきましたけれども、やっぱりいきなりカメラをドンというふうに差し向けられると、皆さん方もいつも注意してやったださっていると思いますけれども、やっぱりいろんな感情が沸き起こっていくということの中の今回の院長の対応だったと思いますけれども、冒頭申し上げたとおり穏やかにやっていかなければいけない。お互いを尊重しながら、相手のことを思いやりながら、メディアの皆さんはメディアの皆さんで撮りたい絵があるでしょうし、そのへんはやっぱり思いやりの心を持って、本当にコロナ生活の中の一つの合言葉ですよ。相手の立場を尊重してというような気持ちで、これから私は先方と交渉していきたいというふうに思っています。

【テレビ静岡】

分かりました。

【司会】

続きましてSBSさん、どうぞ。

【SBS】

SBSです。いつもお世話になっております。すいません、幹事社の2問目の質問に対して、またプラスアルファで聞かせてください。

【市長】

どうぞ。

【SBS】

JCHOの一部の担当者の方は、何よりも医師の確保と話されていたんですけども、それによって建物の高さや規模も違ってくると答えていただきました。その中で候補地として挙がっている駐車場、第一、第二、または第三、第二とありますけども、実際見てみると規模ちょっと狭いような印象も受けますけども、それにあたり入院機能などの縮小など、そのあたりはいかがでしょうか。

【市長】

医師の確保が最も重要だということは私と共通認識であります。ですので、私も医師の確保に向けて汗をかきます。こう院長に呼び掛けたいと思います。

【SBS】

すいません、もう一つの候補地。駐車場となってるんですけども、あの規模で、もし、今、凍結状態じゃないですか。そうすると、もし移転を早く進めたいとなった場合は向かい合わせでというイメージでいいんでしょうかね。

【市長】

ご存じのとおり庁舎をいったん凍結したと。しかし、桜ヶ丘病院が早く移転したいという中から、新しいわれわれの提案があったわけです。それに対して内野院長が明確にそれを前向きに捉え、歓迎すると。そして、検討していくというふうにおっしゃっていただいたのは、大変私どもにとっては心強いなというふうに思っています。

【SBS】

ありがとうございます。

【司会】

そのほか。SATVさん、どうぞ。

【静岡朝日TV】

SATVです。幹事社質問に関連してなんですけれども、桜ヶ丘病院の件も含めて、清水庁舎の跡地に移転だとか、あるいは海洋文化施設、いわゆる三つの大きな事業について、先の市長選では田辺市長は清水の活性化はもう待たないんだということを繰り返しておっしゃって、これを公約としたわけなんですけれども、今このように一時凍結するとかストップして、さらに庁舎の駐車場を移転の候補地とするというような、当初とは違った、今、状況になっていることを有権者に対しては、例えば説明する予定があるのか、それならばどのように説明するのか、先ほどの公開、非公開ってということにもつながってくるかとは思いますが、その点どうお考えなのかお伺いしたいというのが1点目です。

2点目が、今も出ましたけれども、駐車場に病院を誘致するということは、病院の規模というのは当初計画よりも縮小してやるという考えでいらっしゃるのか。その場合、市立清水病院との兼ね合い、役割分担、何かあるのか。あるいは統合するというようなお考えなのか。そのへんも具体的にお伺いできればと思います。

【市長】

ありがとうございます。いくつか論点があったかと思えます。まず最初に申し上げたいことは、残念です。昨年、私は3期目、公共投資を積極的に投ずることによって民間の投資を促し、経済の活性化をし、まちににぎわいを、あるいは雇用の確保という訴えをしておりましたので、それがこういう状況でいったん停止をせざるを得ないというのは本当に断腸の思いであります。

しかし、私も大型連休、ステイホーム期間、考えに考えました。推し進めるべきなのか、いったん立

ち止まるべきなのか。その結論がいったん立ち止まるべきだという結論に至ったわけであり。今回いったん止めたということに意味があるかと思えます。行政計画というのは、記者、ご存じだと存じますけれども、いったん議決をされた、いったん予算が認められると、意外と経済状況とか社会情勢にかかわらず進めるものなんですね。進めるものなんですね。止まるっていうのはすごい大変なエネルギーを要するわけですね。そういう中で、今回いったん止めたということに私は大きな意味がある、これは社会経済情勢に敏感でなければいけない、経済感覚を持って行政計画も進めなければいけないという気持ちでありますので、そのことをご理解いただき、それだけ、今、不安な気持ちで思っている市民の皆さんに寄り添う、これに対する対策、これは感染拡大防止と社会経済活動の活性化、この二つに向けて最優先に予算配分をしていくということで、市民の理解をお願いをしていきたいというふうに思っています。

また、そのことは私は説明責任がありますので、今、丁寧に、割と丁寧にこの記者会見の場でお話しているのも一つの機会ですし、これから6月の議会も開かれますので、そこでは私の思いの一端を市民の代表たる議会の皆さんにもお伝えをしていきたいし、また、質問でもお答えをしていきたいというふうに思っております。

【静岡朝日TV】

今後、タウンミーティングですとか、以前やられたような、清水区民なんでしょうか、市民への説明ということは、直接的な説明というのは考えてはいらっしゃるということでしょうか。あと、2点目なんですけれども、駐車場への移転ということで、病院の規模は縮小ということで考えていらっしゃるのか、市立清水病院との統合ということなのか、役割分担ということで具体的に考えているのか、そのあたりはいかがですか。

【市長】

まず、庁舎の問題を止めて、今回一番影響を受ける恐れのあるJCHOさんに迷惑をかけてはいけないわけですね、今回の私の決断が。ということの中で、JCHOさんが第三駐車場を前向きに考えていくと、あれ2,300㎡であるけれども、ここで前向きに考えていくことを大変心強く思ったと先ほど申し上げましたけれども、その上でどのような病院を建てていくのかということについて、医師の確保が一番重要だという考え方ですので、そこに対して最大限、私たちは下支えをしていきますよと、一緒に汗をかきましょうということを申し上げたい。

と同時に、やっぱり静岡市全体の医療体制が今後どうあるべきかという観点も必要だと思います。清水区の中でどういう医療体制が市民の皆さんに対して最も適切なのか、人口減少の時代ですので、そういう大局的な中長期的な観点からも私は物を申していかなければならないというふうに思っています。その中で清水桜ヶ丘病院にどんな役割を担っていただくかということで、これは第一義的には当事者であるJCHOさん、あるいは清水桜ヶ丘病院の皆さんにも考えていただきたいということをお願いをしたいと思っています。

【静岡朝日TV】

じゃあ現段階では具体的に市立清水病院とどういすみ分けをするかとか、統合するかとか、そういうことは何も考えとしてはないというようなことでよろしいでしょうか。

【市長】

それはいろんなシミュレーションはあります。でも、これは先ほど申し上げましたとおり、これから議論をしていく話であります。先方の考え方もあるだろうし、先方の考え方を尊重しながら、われわれはどう側面援助をしていくかということもありますし、また、公的な立場では議会の皆さんのご意見もあるでしょうし、今はそういう意見、さまざまな意見を私は聞かせていただき、衆知を集めて最善の結論を得るということで、いろんな選択肢があるということをご理解いただきたいと思います。ただ、一般論として申し上げれば、今人口減少時代、少子高齢化の時代で、それに伴う医療体制があると。厚生労働省も物議を醸し出した地域医療構想を発表いたしましたよね。やっぱり医療費の抑制もしていかなければいけない。例えば文部科学省は大学のことについてやはり一つのビジョンを示しております。そういう中で静岡大学がやはり浜松医科大学とどういふふうこれから再編、経営をどう達していくのかという議論をしています。それと同じでありますね。ですので、そういう流れの中でどうかという、今喫緊の課題と中長期的な課題があります。まず市長としていま公的に申し上げることができるのは、喫緊の問題に対して一生懸命、桜ヶ丘病院、支えていくと、そして、清水での存立を継続してもらおうということですので、ぜひその点ご理解をお願いしたいと思います。

【静岡朝日TV】

ありがとうございました。

【司会】

NHKさん、どうぞ。

【NHK】

NHKです。桜ヶ丘病院について引き続き。おそらくオンカメラで院長が取材に応じていただいているの、今のところ私どもだけのようですので、もう少し具体的に伺いますが、場所については、院長、私どもに対して、場所どうこう言う以前に移転建て替えの時期が早まるようであれば私は歓迎すると明言していただいておりますので、これはそういうことなんだろうと理解しておりますが、おっしゃっているとおり、医師の確保について静岡市がどれだけ汗をかいていただけるか次第だと。これは院長の言葉ではありませんが、汗をかくというのは市長が頭を下げるとか桜えびやマグロがおいしいよとアピールするということではなくて、もうお金の問題、寄附口座にいくら積めるのかという問題であると。その額は、これも院長が額をおっしゃったわけではないですけれども、1,000万、2,000万では利かないだろうと、文字通りそういった額とは桁が違う額を出さなきゃいけないだろうという関係者の話も聞いております。こういった、いろんなこれからの交渉ということだと思っておりますが、存続のために

必要な額は予算付け全ですという覚悟がおりかどうかお聞かせいただけますか。

【市長】

まず、間接的ではなくて、院長、私に直接おっしゃっていただきたいということを今日は申し上げておきたいと思います。そこからいろんな交渉が始まると思いますけども、私どもは先ほど申し上げたとおり汗もかいていく、医師の確保に対して汗をかいていく、物心両面でさまざまな支えをしていきたいというふうに考えております。

【NHK】

お金については必要な額は市として担保するというのでしょうか。

【市長】

まずは直接、院長、私におっしゃってくださいと今日のところは申し上げておきます。私が交渉の当事者ですから。

【NHK】

これも先週伺いましたが、ではお金を出すときに市が公金を独立行政法人である桜ヶ丘病院のために拠出することに、そこに説明をどうつけるのか。清水病院のこともさることながら、清水厚生病院だって、なんで桜ヶ丘病院ばかりということはご不満持たれるかもしれませんが、そこのご説明をどうされるかお聞かせください。

【市長】

将来的にはウインウインの関係で清水の市民の安心安全を守るという意味の体制に持っていくというのが私のビジョンであります。

【NHK】

このあたり、1日のときに保健福祉長寿局ともかなり強い議論があったようですが、差し支えなければ局長からもこういった予算の枠組み、スキーム、どういうスキームなら寄附口座にお金を出せるのか、お考えをお聞かせいただけますか。

【市長】

私は以前からも、静岡病院、清水病院にOB医師を派遣して下さっている京都大学、慶応大学はじめとしたさまざまな医大に赴いて、医師確保について要請をしております。学部長や院長にお会いをして頭を下げております。それほど全国的に地方の都市に医師を送ってもらうということが困難な時代になっております。それはご存じのとおり研修医制度が大きな改革があって、若いお医者さんが自分の将来のことを考えてどこの病院に行くのがベターかというふうを選択できるようになった

わけですね。昔は医局の指導教官が桜ヶ丘行けって言えば、有無を言わず桜ヶ丘に医師を送ってくれたという時代があったんですけども、今はそういう時代ではなくなったということです、本当に医師の確保というのはどこの自治体も悩んでいる課題であります。そういう中で、私自身は桜ヶ丘病院と一緒に、清水病院もそうです。静岡病院もそうです。責任のある静岡市内の病院については医師の確保、これはなかなか静岡県内の医師不足という問題なので一朝一夕に解決することではないとは思いますが、全力を傾けていきたいというふうに思っています。

【司会】

そのほかはいかがでしょうか。

【NHK】

すいません、局長にどういうスキームでお金を出すのかというのを私いまお尋ねしたんですが。

【市長】

一言。一言。

【保健福祉長寿局長】

保健福祉長寿局長のワダです。スキームにつきましては、まさに寄付口座っていうのをわれわれもまだ今までやったことがないことですので、まさに今研究を始めたところですので、早急にいろんな手法を考えながら、清水区の医療体制の確保、ひいては静岡医療圏の医療体制の確保というところの観点を見据えながらスキームは考えていきたいと思えます。

【NHK】

いろいろ1日の議論でその点がいろいろあったようですけども、そこは解消できそうなのでしょうか。

【保健福祉長寿局長】

いや、まさにそこをいま検討しているというところですので、ご理解いただきたいと思えます。

【NHK】

清水厚生病院も含めてアンフェアな形にはしないような何かスキームはお考えになれるのでしょうか。

【保健福祉長寿局長】

当然、市民への説明責任っていうのはありますので、そこを考えながらスキームは考えていきたいと思えます。

【司会】

そのほかいかがでしょうか。先に中日新聞さん、どうぞ。

【中日】

中日新聞のイソハタです。大きく2点お伺いします。まず1点目、引き続き桜ヶ丘病院の関係で、昨年記事で問題喚起させていただき、議会でも取り上げられた清水庁舎の地下にもある基礎くいについてお伺いします。仮に病院が庁舎跡地に建たないことになれば、負担先の決まっていない最大 20 億程度のくいの撤去費の負担が、市が負うことになる可能性が高まると思いますが、今度移転計画の見直しの中でこういった関係撤去費が増加する可能性についてどのようにお考えでしょうか。また2点目として、アリーナの検討について、先日の囲みでも、そのときの部局長会議では俎上に上がらなかったということでしたが、現在の検討状況と凍結される可能性について、この大きく2点お伺いします。

【市長】

どうもありがとうございます。まず第1点目は、後ほど所管から実務的に答えていただきますけど、今回第一駐車場、くいが埋まっている第一駐車場じゃなくて第三駐車場の案に前向きに桜ヶ丘病院が考えてくれているということですので、その方向性の中でこの問題は解決をしていきたいというふうに思っています。ただ、凍結するにせよ、今後のリスタートも考え、その問題は残るわけでありますので、そのあたりのところを一つ所管局で誰が、ヤマダ課長いるかな。はいはい。答えていただければと思います。

【アセットマネジメント推進課】

アセットマネジメント推進課のヤマダです。よろしく申し上げます。基礎くい残った場合の増額要因になるんじゃないかというご質問かと思えますけれども、その基礎くいにつきましては必ず抜かなければならないというものではないというふうに理解しております。有用物として残置させることも法的には問題ないというふうに理解しておりますけれども、そのへんも含めてトータルで考えていければというふうに考えております。以上です。

【市長】

はい、どうもありがとう。それから、二つ目のアリーナの件ですけれども、この件については民設民営を考えております。ですので、一般論としてこの社会経済情勢の中ではなかなか事業性、難しいと判断をされている企業も多かろうと思いますが、しかし、大変魅力的な立地にありますので、この件について、また社会情勢が変わったときには積極的な意欲のある企業をできるだけ私たちは受け皿として制御をしておきたいと思っております。

【中日】

1点目につきまして、地下残置が有用物かどうかというの、これはこれまでの議会でも話が出ていたかと思うんですが、今までですと病院が来るからそこが有用物になるっていうようなお話だったかと思うんですが、仮に病院が来ないことになると、次にどういった建物がそこに造られるのかというところまで考えて検討しないと、なかなか撤去費が増えないというふうには言えないんじゃないかと思うんですが、その点お考えどうということかということと。あと、アリーナについては社会情勢を見ながらということですが、引き続き現在の調査検討は続けるというようなお考えでよろしいのでしょうか。

【市長】

大きな変更に伴って、確論では、それについてもこれからまさに議論をしていかなければいけないというふうに思っておりますが、なんとかよろしく願いいたします。

【アセットマネジメント推進課】

じゃあ私からは基礎杭の話でよろしいでしょうか。基礎杭につきましては、その後、建物がどう活用をされるのか、また残るのか、全て解体するのか。また、今、目下目下で病院との交渉をやっているところですがけれども、病院が仮に駐車場だけでよいというような話になれば、その建物の活用なんかも変わってくると思います。そのときの状況によって判断していかなければならないというふうに考えております。

【中日】

ありがとうございます。

【司会】

それでは朝日テレビさん、どうぞ。

【朝日テレビ】

すいません、朝日テレビのネガタです。よろしくお願ひします。まず、内野院長が第三駐車場に前向きだというお話がありましたけれども、これは直接内野院長からそういうお話があったんですか。

【市長】

報告を受けています。直接ではなくて報告を受けています。それも先ほど申し上げたとおり大事なことです。また院長と直接対話をしていかなければいけないというふうに思っています。

【朝日テレビ】

ありがとうございます。それと、先ほどから医師の確保のために汗をかくというようなお話ありましたけれども、具体的にはどういったことなんでしょうか。

【市長】

まずは寄付口座、全国の自治体がいろいろな寄付口座の手法で実施をしておりますので、まずそのための研究をするということ。どういう方法が費用対効果が高いかということでもあります。次に、やはりこれは市立桜ヶ丘病院やJCHO当事者、どこの大学をターゲットにするのか。これはもう先方の意向でありますので、可能性がある医科大学、ターゲットを教えてください、そこに対して私が、私どもが訪問をしていくとともに、そのことについて要請をする、要望をするということでもあります。当面はね。

【朝日テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

そのほかいかがでしょうか。では、NHKさん。

【NHK】

ごめんなさい。地域医療構想について伺いますが、市長、去年の会見では私の質問に対して突如発表された迷惑千万な話です、と、まさに一蹴する言い方をおっしゃいましたけれども、このご認識は今も変わってないんですか。

【市長】

本当に迷惑千万な話ですね。いきなり公表をするという、厚生労働省からすると荒療治だったと思えますけれども、私たち現場を預かる立場からすると全く迷惑千万。しかも、微妙なこの問題をわれわれは抱えている中でドンと出されたというのは大変残念に思います。今でも変わりません。

【NHK】

なぜこれを伺うかといいますと、内野院長はこの地域医療構想による病院再編、統合、機能分担の議論は進めなくてはならないと、これを迷惑な話だと、まさに一蹴する地方自治体の態度に苦言を呈されている立場です。当然、清水においても3病院で一体的に今後どう機能分担を図っていくか、場合によっては経営統合ということもおっしゃってます。このあたり、この先議論していく上で市長のご認識とずれてしまうのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

【市長】

全くそんなことはありません。まず院長と市長と立場が違います。自治体を預かる者からすると迷惑千万な話だということでもありますけれども、地域医療構想そのものについては、先ほど大学との比較で申しあげましたけれども、やはりこれからの社会保障費の高騰、そして国債残高の、今回コロナがあってさらに悪化する国の財政状況ということを見定めると、これは必要な議論、総論としては必要な

議論だというふうに理解しておりますので、その点では内野院長と共通の認識を持っているというふうに理解をしてほしいと思います。

【NHK】

分かりました。ありがとうございます。

【司会】

そのほかいかがでしょうか。では、すいません、45分になりますので最後ということでお願いいたします。SBSさん、どうぞ。

【SBS】

すいません、SBSのクマサカと申します。

【市長】

どうぞ。

【SBS】

庁舎移転凍結となっている中、昨日住民団体が署名、庁舎移転の賛否として3万を超える署名を集めて提出されたと思うんですけども、そのあたり市長として、今後対応していくと思いますが、ご意見などありましたら教えてください。

【市長】

住民投票制度っていうのは、これは法令に基づいて担保されている大事な制度でありますので、それに基づいてそのような提出がされたということを私たちはきちんと踏まえ、その責任は持っていくたいというふうに思っています。

【SBS】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。それでは、以上で本日の記者会見を終了させていただきます。次回の会見は6月19日、金曜日の午前11時からとなりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。